

## 第7回新見市人口減少問題対策会議 会議要旨

新見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、配付資料に基づいて事務局より説明した後、5つの重点目標ごとに意見交換が行われ、各委員より次のとおり意見が出されました。

市では、各委員からの意見を今後の事業にどのように反映させていくかについて検討を行うこととしています。

- 1 観光施策が世の中の動きに合致したことが出来ていない。
  - ①身近にある資源の徹底的な洗い直しが不足。
  - ②「コト消費」(体験中心)という流れのなかへの落とし込みが出来ていない。
  - ③人の動きが広域化しているにも関わらず、広域化の中で施策を考えることが出来ていない。
- 2 既存の観光地の周辺整備をして、もう少しそこで長時間楽しめるような観光地づくりをしていかないといけない。

新見駅では、大きな荷物を抱えて地下道を歩いて上下しないといけない。これは問題である。
- 3 何かする時にパイを広げるためには、協調しなければいけない。このまちは基本的に協調できていない。

行政は利害関係がないから、協調のための仕組みを作らなければいけない。  
大きな枠組みを作って、協調する施策を行わないと個々の施設だけでは魅力が足りない
- 4 新見で働きたいと思う魅力づくりをしていきたい。民間レベルでの人手不足はかなり深刻である。
- 5 人材の確保については、第一次産業が若手から敬遠されているという見方をせず積極的にいろいろなことに取り組みたい。

仕事内容は、端から見るのと現場に入ってみるのとでは全く違う。高校生等にもインターンシップなどで体験をしてもらい、やりがいのある仕事であるということを認識してもらうことが重要。
- 6 出生数については人口対策の根本になる。徹底的に生みやすく、徹底的に育てやすく、徹底的に女性が働きやすいというまちを作らない限りはこの数値の改善はできない。

- 7 ここ（新見市）に住むことの価値観の発信も必要。新見のまちは 200 万でも生活でき、都会にあるものはないかもしれないが、あるものもいっぱいある、という考え方に変えていくやり方もある。
- 8 未婚率については年代毎に、もっと細かく分析する必要がある。  
子育てに不安を感じる要因について、一般的な解消策とは違う要素が新見市にはあるのかどうかを分析し、あるのならばそれを解消しなければいけない。  
結果に対して、対策的なことやディスカッションが出来ていない。  
石灰を中心とした、新しい観光地を作ることを考えていただきたい。
- 9 人口減少問題の対策としては、自立内発型のまちをどう作っていくことということが大きなテーマ。そこを避けていることが、この戦略が抱えている最大の問題。
- 10 出る人間を減らしていかないと人口減少の対策にはならない。  
いま住んでいる 3 万人弱の人間がいかに満足できるかが大事。  
一方で手厚いことをしておいて、地元の間にはそれが無い。企業にしても同じ。  
こういった不満が、市に対してあれば、良い結果を生まない。
- 11 これからは交流人口よりも関係人口、個々がどうやって情報発信してコミュニケーションをとっていくか、関係人口に重きを置いた方が良い。
- 12 この会議は年 1 回で良いのか。PDCA サイクルの A までやるのであれば何回も開催しないと「アクション」は出てこない。もう少し回数を重ねて、これをやるためにはどうしたらよいかというところまで協議する必要がある。